

正誤表（達成状況評価）

14：福島大学

| No. | 頁数 | 誤 | 正 | 修正事由 |
|-----|-----------|---|---|-----------------|
| 01 | p.2 | 震災による甚大な <u>震災</u> 被害が長期化することで、 | 震災による甚大な被害が長期化することで、 | 衍字があったため |
| 02 | p.5 | 企業人材を輩出すべく、企業意欲を持つ学生の | <u>起業</u> 人材を輩出すべく、 <u>起業</u> 意欲を持つ学生の | 誤字があったため |
| 03 | p.6 | 短期間福島大学に受け入れ、 | 短期間 <u>本学</u> に受け入れ、 | 文言の統一のため |
| 04 | p.7 | <u>現在、建物は、分析棟のみであるが、</u> 平成27年10月に本棟（仮称）が着工し、平成29年2月に完成予定である。 | 平成27年10月に本棟（仮称）が着工し、平成29年2月に完成 <u>した</u> 。 | 建設が完了しているため |
| 05 | p.13 | 評価ツールの整備である（別添資料1-1-1-e）。 | 評価ツールの整備である（ <u>再掲</u> ：別添資料1-1-1-e）。 | 再掲資料のため |
| 06 | p.20～p.23 | 別添資料1-1-3-1-a | 別添資料1-1-3-1-a <u>1～2</u> | 別添資料の記載漏れがあったため |
| 07 | p.20～p.21 | 別添資料1-1-3-1-b | 別添資料1-1-3-1-b <u>1～2</u> | 別添資料の記載漏れがあったため |
| 08 | p.22 | 「アクティブ・ラーニング・ラボラトリー（ <u>通称</u> ALLAB）」 | 「アクティブ・ラーニング・ラボラトリー（ALLAB）」 | 衍字があったため |
| 09 | p.24 | 可能となる体制となった（別添資料1-2-1-2-a、1-2-1-2-b）。 | 可能となる体制となった（別添資料1-2-1-2-a、1-2-1-2-b <u>1-6、1-2-1-2-c</u> ）。 | 別添資料の記載漏れがあったため |
| 10 | p.24 | 「Lポートフォリオ」を構築した（再 | 「Lポートフォリオ」を構築した（再掲： | 誤字があったため |

正誤表（達成状況評価）

| | | | | |
|----|-----------|--|---|----------------------|
| | | 掲：添付資料 1-1-1-1-h)。 | <u>別添</u> 資料 1-1-1-1-h)。 | |
| 11 | p.24 | (再掲：別添資料 1-2-1-2-b) | (再掲：別添資料 1-2-1-2-b <u>1</u> <u>~6</u>) | 別添資料の記載漏れがあったため |
| 12 | p.24 | アクティブラーニング・ラボラトリー | アクティブ・ <u>ラ</u> ーニング・ラボラトリー | 脱字があったため |
| 13 | p.25 | アクティブラーニング型授業モデルとして、 | アクティブ・ <u>ラ</u> ーニング型授業モデルとして、 | 脱字があったため |
| 14 | p.25 | 活用に向けての基盤を構築すした。 | 活用に向けての基盤を構築 <u>した</u> 。 | 衍字があったため |
| 15 | p.26 | 有給に学生スタッフ | 有給 <u>の</u> 学生スタッフ | 誤字があったため |
| 16 | p.28 | 他社とのコミュニケーションや | 他 <u>者</u> とのコミュニケーションや | 誤字があったため |
| 17 | p.28 | を策定した（添付資料 1-3-1-2-a）。 | を策定した（ <u>別添</u> 資料 1-3-1-2-a）。 | 誤字があったため |
| 18 | p.30 | 改善した（添付資料 1-3-1-4-a）。 | 改善した（ <u>別添</u> 資料 1-3-1-4-a <u>1</u> <u>~2</u> ）。 | 誤字および別添資料の記載漏れがあったため |
| 19 | p.30 | (再掲：別添資料 1-3-1-4-a) | (再掲：別添資料 1-3-1-4-a <u>1</u> <u>~2</u>) | 別添資料の記載漏れがあったため |
| 20 | p.32 | 福島大学生協同組合 <u>(以下、「生協」という。)</u> との共催による | 福島大学生協同組合との共催による | 再出しないため |
| 21 | p.32~p.33 | 福島市企業立地課 | 福島市 <u>商工観光部</u> 企業立地課 | 脱字があったため |
| 22 | p.34 | 楽天野球団 | <u>株式会社</u> 楽天野球団 | 脱字があったため |

正誤表（達成状況評価）

| | | | | |
|----|---------------|------------------------------------|---|-----------------------|
| 23 | p.35 | 授業と連携した就職ガイダンスへの参加等を実施する。 | 授業と連携した就職ガイダンス等を実施する。 | 衍字があったため |
| 24 | p.36 | 大学共通テストの導入に当たり、 | 大学 <u>入学</u> 共通テストの導入に当たり、 | 脱字があったため |
| 25 | p.37 | 入試改革実行 WG と AC 運営委員会で | 入試改革実行 WG と AC 運営 <u>会議</u> で | 誤字があったため |
| 26 | p.41 | プロジェクト Education2030 | プロジェクト「 <u>Education2030</u> 」 | 脱字があったため |
| 27 | p.41 | 研究・人材育成事業を実施した。 | 研究・人材育成事業を実施 <u>した</u> 。 | 衍字があったため |
| 28 | p.42 | 地域課題解決にむけた | 地域課題 <u>等</u> の解決にむけた | より正確な表現とするため |
| 29 | p.43～ p.44 | (別添資料 2-1-1-1-c) | (別添資料 2-1-1-1-c <u>1～2</u>) | 別添資料の記載漏れがあったため |
| 30 | p.46 | プロジェクト研究所所長会議、 <u>・</u> 成果報告会を開催し、 | プロジェクト研究所所長会議、成果報告会を開催し、 | 衍字があったため |
| 31 | p.51 | 第 1 期及び第 2 期の実績を元にして、 | 第 1 期及び第 2 期の実績を <u>基</u> にして、 | 誤字があったため |
| 32 | p.51 | 京都において生徒国際イノベーションフォーラム 2020 を開催し、 | 京都において「 <u>生徒国際イノベーションフォーラム 2020</u> 」を開催し、 | 脱字があったため |
| 33 | p.56 | 平成 28 年度から令和元年度に 12 回開催した。 | 平成 28 年度から令和元年度に <u>11 回</u> 開催した。 | 確認事項の提出の際に別添資料を提出したため |
| 34 | p.59 | Plan→Do→Study→Act | Plan→Do→Study→ <u>Action</u> | 脱字があったため |
| 35 | p.61 | 特に、人材育成については、再生エネルギー先駆けの | 特に、人材育成については、再生 <u>可能</u> エネルギー先駆けの | 脱字があったため |

正誤表（達成状況評価）

| | | | | |
|----|------|--------------------------------|---|------------------|
| 36 | p.66 | 再生エネルギー分野の実践的人材を育成するため、 | 再生 <u>可能</u> エネルギー分野の実践的人材を育成するため、 | 脱字があったため |
| 37 | p.67 | また、福島県を再生エネルギー先駆けの地とするため、 | また、福島県を再生 <u>可能</u> エネルギー先駆けの地とするため、 | 脱字があったため |
| 38 | p.71 | アメリカへと拡大することができた。（中期計画4-1-1-1） | アメリカへと拡大することができた。（中期計画4-1-1-1、 <u>4-1-1-3、4-1-1-4、4-1-1-5</u> ） | 該当する中期計画が漏れていたため |
| 39 | p.73 | また、米国・コロラド州立大学 | また、 <u>アメリカ</u> ・コロラド州立大学 | 文言の統一のため |
| 40 | p.76 | 英国や米国からの交換留学生の受入も | 英国や <u>アメリカ</u> からの交換留学生の受入も | 文言の統一のため |
| 41 | p.77 | 「OUR FIKUSHIMA」を支援した。 | 「OUR <u>FU</u> KUSHIMA」を支援した。 | 誤字があったため |
| 42 | p.78 | 中止となったプログラムもあったが、 | 中止となった <u>プログラム</u> もあったが、 | 衍字があったため |